

## 第5回ESDティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

大西 浩明

◇日時 2026年1月27日(火) 19時～20時30分

◇方法 Zoomによるオンライン方式

◇参加者 20名

◇実践報告 山形県教育局村山教育事務所社会教育課 小関直幸氏

「慈恩寺の魅力発信して、醍醐地区を盛り上げよう

～目指せ！ 慈恩寺子どもガイド～」(小学校6年：総合)

### 【実践概要】

寒河江市立醍醐小学校に勤務時、令和3年度の実践

慈恩寺・・・746年、聖武天皇の勅命により開山された歴史と由緒のある寺 薬師堂の「十二神将」

- ・人口の高齢化により、地域の活性化が求められていた
- ・慈恩寺テラス(ガイダンスセンター)の開設(2021年)
- ・NHK大河ドラマ「鎌倉殿と13人」 大江氏ゆかりの寺

慈恩寺の歴史などの「こと」、

慈恩寺にある文化財などの「もの」、

1300年も失われず残ってきた背景にある」ひと」の思いに触れ、

→ 慈恩寺の魅力をも主体的に発信できる子どもを育てたい！

### 学習の流れ

醍醐地区の現状と課題を整理する 地域を活性化したい！ 慈恩寺を活用した取組ができないかな

慈恩寺や慈恩寺テラスの見学 慈恩寺を活用した寒河江市の取組を調べる

地域学校協働活動推進員さんに来校していただき、醍醐地区の人たちの思いや願いについて聞く

「このままでは大切なものが受け継がれていかない」 「慈恩寺のガイドをしたい」

慈恩寺子どもガイドに向けて

ガイド原稿やパンフレットの作成

→ 地域や慈恩寺の方にアドバイスをもらう

→ 練習

学校と慈恩寺を何度も行き来し、リライト

9月下旬 子どもガイド実施(約1時間で20組)



<p>寒河江市立醍醐小学校 6年生 慈恩寺子どもガイド パンフレット</p>		<p>慈恩寺の本堂には、茶色と白の2枚の絵馬があります。寒河江の大江氏家臣、郷野右京進貞重(ごうのめうきょうのしんさだしげ)という人がかいたといわれています。絵馬は、市の文化財に指定されています。ポルトガル人が描かれた南蛮絵馬も見ものです。</p>	
	<p>慈恩寺には、数多くの文化財があります。本堂は国、三重塔は県、薬師堂は市の文化財です。また、本堂ご本尊の弥勒菩薩は国、三重塔ご本尊の天日如来は県、薬師堂の中にある十二神将は国の文化財です。貴重な文化財をじっくりとご覧ください。</p>		<p>十二神将は、薬師如来・日光月光菩薩を守っている天部という仏様です。十二神将は、十二支と結びつき、あらゆる時と方角を守っています。十二体そらっていることはとてもめずらしいです。それぞれ違ったポーズをしていて、とてもかわいいです。</p>

メディアにも取り上げられ、隣町の小学校から慈恩寺子どもガイドを依頼される →パート2実施  
外国人向けのガイドブック作成

子どもガイドを通して・・・「慈恩寺は今日まで守り継がれてきた貴重な財産」「地域に貢献できた」

外部からの評価により手応えや達成感を味わう 積極的な行動化につながった  
醍醐小学校の総合的な学習の時間の柱として現在も実施されている（今年で5年目）

#### 【意見交流から】

- ・地域とつながって子どもが学ぶことの意義を改めて考えさせられた。
- ・高校生になった当時の子どもたちの今の様子を教えてほしい。  
→ 卒業してからも、ガイドをしようとする後輩の様子を見に来てくれたりしていた。
- ・奈良市では「世界遺産学習」を進めているが、成人しても「当時の学びが楽しかった」と言ってくれたりして最近うれしかった。
- ・地域学校協働活動推進員さんとうまく連携できるシステムが必要だと感じている。  
→ 管理職とはつながっていても学級担任とはなかなか接点がない。  
週1回30分でも、いろんな先生と話ができる環境があればいいのではないか。  
最初はお茶会でもいいと思う。
- ・毎年同じ取り組みを続けていく中で、変化していっているところは？  
→ 子どもガイドをすることで、地域が変わった。  
もともと由緒正しい寺なので、だれもが敷居を高くしていたが、子どもガイドでも観光客はとも喜んでくれているのが分かって、地域の人たちの考えが変わった。  
2年目は、寺の方から「違ったところのガイドを」とリクエストされた。  
3年目以降も、「今度は自分たちが・・・」という思いが強く、マンネリにはなっていない。  
6年の担任には、「何のために子どもガイドをするのか」という意義や目的を話してきた。
- ・地域を巻き込んで、地域の人に火がつくという取組になっているのは素晴らしいと思う。
- ・歴史文化遺産を通したESDとしては本筋の実践だと感じる。
- ・こういう学びを経験した子どもたちは、すぐに数値化できる変化はなくても、確かな地域アイデンティティを持った人に育っているはずである。
- ・人がどんどん減って、「その地域はなくなっていいのか？」と考えたら、やはりそうではないと思う。  
そこで、子どもたちが力となって大人が変わっていけば、地域は残っていくのではないか。